

2017.12.24 05:03

## 【産経抄】「金を失わぬ」 鉄道会社の験担ぎもいいが… 12月24日

徳富蘇峰と蘆花は不仲の兄弟で知られる。言論人の兄は「徳富」を用い、人気作家の弟は「徳富」に固執した。小説『黒潮』（明治36年）の中で、蘆花は思想の異なる兄に断交を伝えている。「此（この）相違は…先天的相違なるを認めたと。「富」と「富」、点の一つにも悲話がある。

▼似たような挿話は線の長短にもある。「鉄」では「金を失う」と読めるため縁起が悪い。旧字体の「鐵（てつ）」を使う企業があり、「金」に「矢」で「●（てつ）」と読ませる験担ぎもある。JRの各社が「●道」の当て字をロゴに用いているのは、鉄道ファンならご存じだろう。

▼悲しいかな、矢のような輸送に心を砕くあまり、見失ったものも多い。博多発東京行き「のぞみ」の台車に見つかった亀裂は破断寸前だったという。停車があと少し遅ければ、どんな惨事を招いたか。そんな想像力すら働かない会社に乗客は命を預けているらしい。

▼小倉で焦げた臭い、岡山では異音を乗務員らが確認し、乗客から「車内にもや」の声もあった。JR西日本の運行区間である。異常を放置し、約3時間も走らせた神経が不思議でならない。新大阪駅では「問題なし」とJR東海に引き継いだというから言葉もない。

▼「前日の目視では」と常套（じょうとう）句が聞こえてくる。金属疲労が理由なら、当該車両の問題で収まるまい。乗客106人が死亡した福知山線の脱線事故は12年前だった。漢字の取るに足らぬ違いに気が回り、重大な異変には驚くほど感度が鈍い。悲劇から何を学んだのか。

▼JR西もロゴに使う「●」は「やじり」と読む。命を乗せて運ぶには物騒な代物である。験担ぎもいいが、交通の大動脈を預かる者として先になすべきことはないか。このままなら、金より先に失うのは信用だろう。

●=金へんに矢

## 旅客鉄道

験担ぎもいいが…

©2017 The Sankei Shimbun &amp; SANKEI DIGITAL All rights reserved.